

◆編集・発行

茨城県茨城郡茨城町小堤1080
〒311-3192
☎ 029-240-7126
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口

住民基本台帳
平成29年8月末現在
男 16,612人
女 16,538人
総人口 33,150人
世帯数 13,026世帯

◆茨城町民憲章

- 1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
- 1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
- 1 隣人や家庭の愛を大切に、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
- 1 自分の仕事に責任と誇りを持ち、活気に満ちた町をつくりましょう。
- 1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の情報発信中!!



●町公式ホームページ

<http://www.town.ibaraki.lg.jp/>



●町公式ツイッター

<https://twitter.com/ibarakiTownMati/>



●町公式インスタグラム

https://www.instagram.com/townibaraki_official/



里山に育む生きものたち

No.62 アカボシゴマダラ

(タテハチョウ科)

学名 *Hestina assimilis assimilis*

写真・文 小菅 次男

▼ついに茨城町に侵入
7月のある日、茨城町に住む旧友の上野勝夫氏から突然の電話。「珍しいチョウを採ったよ、アカボシゴマダラに違いない」とのことでした。私の知る限りでは茨城町の初記録かも知れません。私が初めて本種に出会ったのは、2010年8月に東京都の石神井公園でした。今年7月には水戸の我が家でも2回この蝶を目撃しました。

▼放蝶による外来種

中国、朝鮮半島、台湾原産で日本の奄美群島以外には生息していない蝶です。日本には意図的な放蝶により導入

されたと言われます。1998年神奈川県藤沢市で確認されて以後分布を広げ、2006年には東京都から関東地方へと広がり、茨城県へは2011年真壁、2012年古河市と続きさらに拡大を続けています。

▼特長

前翅長40〜53mmで、同属の在来種ゴマダラチョウとは、後翅の外側に赤色の紋を持つことで区別できます。アカボシゴマダラの幼虫は食樹エノキの幹上で越冬するので、落葉で越冬するゴマダラチョウの幼虫より早く新葉に到達し、台座を作りその位置を占める

と推察されています。ゴマダラチョウのようにはクヌギ・コナラの樹液にもカブトムシなどと共に集まっても来ます。

▼影響と対策

幼虫期に在来種ゴマダラチョウやテングチョウ、環境省の準絶滅危惧種オムラサキとは食草を巡り競争する恐れがあります。環境省では要注意外来種に指定し、また植物防疫法では検疫有害動物として輸入を禁止しています。本種を意図的に放蝶して野外への定着を試みる行為は、被害の予防の観点からも厳に慎むべきものです。

ちびっ子アート いばらき幼稚園



「電車に乗ったよ」
うめばら ゆう(6歳)



「千波湖の花火を見に行ったよ」
ふじい ことこ(6歳)